

「むさしの26号」 実証結果について

1 飼料用米の交付金について

令和6年産以降、一般品種での飼料用米の支援水準（水田活用の直接支払交付金）が毎年段階的に引き下げられています。

減額後も一般品種で継続することは可能ですが、国・県が認めた多収品種及び知事特認品種であれば従来通りの金額が支払われます。そこで、現在一般品種を栽培している生産者は、対象品種への転換が望まれます。

2 埼玉県知事特認品種

埼玉県では知事特認品種として「むさしの26号」の認定を受けており、令和6年産から種子の販売が始まりました。

そこで、今年度は寄居町にて調査ほを設置し、「むさしの26号」の地域適性を調査しましたので、その結果をご紹介します。

3 「むさしの26号」の特徴

適量の施肥で一般品種よりも多収が期待でき、肥料高騰の現状に適した特性をもちます。出穂、成熟は、「コシヒカリ」と「彩のかがやき」のほぼ中間です。

また草丈が「彩のかがやき」と同程度なので、高刈りせずに収穫できる利点もあります。

4 実証結果

○栽培概要

田植日	5月22日
栽植密度	53株/坪
出穂日	8月4日
収穫日	10月15日
施肥	表1の通り

○調査結果

令和6年産の調査結果は、表2の通りです。

収量目標である600kg/10aを上回る多収となりました。要因としては、穂長が長く、一穂粒数が多かったこと、登熟歩合が良好であったことが考えられました。天候も安定していたことから、倒伏も見られませんでした。

以上のことから、今年度の結果からみると「むさしの26号」の地域適性は十分にあると考えられました。

5 飼料用米品種の注意点

JAふかや管内では、個人で乾燥調製できる方に限ります。また主食用米として絶対に流通させてはいけません。知事特認品種で流通が確認された場合は、認定取り消しとなります。乾燥施設の使用時期を、主食用米としっかり区別して使用するようしましょう。

生育調査結果

表2 調査結果

区	田植日	出穂期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精玄米重 (kg/10a)
調査ほ	5月22日	8月4日	89.8	22.7	321	723 ^{*2}
品種特性 ^{*1}	5月24日	8月9日	92.1	22.0	337	572

品質調査結果

区	一穂粒数	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
調査ほ	115	89.9	22.3
収量構成要素 ^{*1}	95	80	22.0

※1：埼玉県再生協議会「「むさしの26号」を作ってみませんか」より抜粋

※2：坪刈り収量

表1 調査ほの施肥情報

肥料名称	成分含有量	現物施用量
ミツイ 高度化成	12-18-16	40kg
成分量 (kg) (10aあたり)		
窒素	リン酸	カリ
4.8	7.2	6.4

「スマート農業技術活用促進法(※)」 の認定を受けませんか？



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

農業者等が、スマート農業技術の活用及びこれと併せて行う農産物の新たな生産の方式の導入に関わる計画「生産方式革新実施計画」を作成し、地方農政局長の認定を受けると、日本政策金融公庫の長期低利の融資や設備投資の際の税制優遇等が受けられます。

詳しい情報は、農林水産省のHP（右の二次元コード）を御覧いただくか、
大里農林振興センター(048-526-2210)までお問い合わせください。

※農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用の促進に関する法律の略称

